

最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

知るといふこと

平塚市立春日野中学校

三年 前田 乃 裕

白杖を頭上に掲げる、「白杖SOSシグナル」。このサインの意味を知っている人はどれくらいいるでしょうか。

私の母の職場では視覚障がい者の方が働いています。そのため、小学生の時に母の職場へ行つた際、初めて視覚障がい者の方と関わりました。当時の私は障がい者の方に対してどこか自分とは違ふと思つたり、怖いと思つていました。でも母の職場へ行つてみると私のイメージは大きく変わりました。そこには楽しく話をする視覚障がい者の方たちがいました。声を聞き分け、時々相手の方向を向きながら話す姿に私は驚きました。また、私が挨拶をすると、とても明るく優しく話してくれました。それから私は彼らがどんな仕事をしているか気にな

り、

「何を作っているんですか？」

と聞くと、編んでいた布草履を見せてくれました。それは目の見えない人が編んだと思えないほど綺麗な編み目でとても素敵なものでした。私が草履に感動していると、パチンパチンという音が聞こえてきました。何の音か母に聞くと、母は一人の男性の方を向き、

「あの人は指を鳴らしてその反響を聞くことで障害物がないか聞き分けているんだよ。」

と言いました。私は驚くと共に視覚障がい者の方たちの事を何も知らなかった自分を情けなく思いました。それから何度か母の職場に行くにつれて、一つにまとめられている視覚障がい者の中にも見える度合いや見えなくなってしまった原因などに違いがあること、ご飯や物の位置は時計の文字盤に例えることなどを知り、初めて知ることが多くとても勉強になりました。また、視覚障がい者の方が普段の生活で困る事のほんの一部も知りました。一つは自動販売機で飲み物を買う時で、いつもの位置にあると思って買った商品入れ換えで違う飲み物が出てくる、そんなことがあるそうです。もう一つは雨の日だそうです。雨の日は白杖と傘を持つことで体が不安定になったり雨音に遮られ、周りの音を聞き分けることができないと聞いて私ははっとしました。それは目からの情報で判断できる私たちには気づけない事でした。私は普段何気なく使っている物でも、障がい者の方にとっては使うのすら難しいこともあると学びました。中でも一番知ることができて良かったのは「白杖 SOS シグナル」です。視覚障がい者が白杖を頭上に掲げた時、それは助けてくださいという意味があるそう

です。このサインを知ると共にこの意味は私たち健常者が知らないと視覚障がい者の方たちを助けることができないと分かりました。

私は関わって初めて視覚障がい者について理解を深めることができました。今は多様性が重視されたり、障がい者に対する法律や設備が整ってきています。でも、まだまだ障がい者と健常者という区別が差別や偏見に繋がり、苦しんでいる人がいます。私たちがそれをなくしていくために出来る事、それは「知る」ということだと思います。何をするのが大変なのか、困っていたらどう助けるべきなのか知るだけで障がい者に対する意識が変わるはずです。また、知識を持つているだけでいざという時にその知識は彼らを助ける力になります。もちろん法律や設備が整うことは大切です。例えば、商品名が点字でも記される自動販売機があっても良いと思います。でも、人々の意識が変わらない限り差別や偏見は消えないと思います。人々が障がい者に対する知識を深め、意識を変えることで障がい者と健常者という域を越えて互いを想えるようになればいいなと私は思います。